

復興の歩みを進めるいわて三陸の姿を紹介します。

復興キラリ

おおつち海の勉強室（大槌町）

おおつち海の勉強室

「おおつち海の勉強室」を運営している東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センターの皆さん。右から3人目は大土直哉助教。



研究者と地域の交流を深めて 三陸の海の魅力を再発見！

大槌町に拠点を構え、海洋の研究をしている東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター。東日本大震災津波の被害を受けて移転したセンターの跡地に、研究展示室「おおつち海の勉強室」を2021年に開設しました。

ここは、三陸の海の生物や環境などを学べる場であり、研究者と地域の交流の場。センターの研究成果を地域の人々に発信しながら、地元の人々について共に考える拠点を目指しています。

勉強室では三陸の海の生物たちを水槽に入れて紹介しているほか、写真や動画が見られるタッチパネル式の生き物図鑑も。期間ごとに変わるメ



施設内の中央にあるオサガメの子のはく製は、子どもたちに大人気。夏休みには、海のことを楽しく学べるイベントも開催。

イン展示では、テーマに沿った生物標本などが並べられ、多様な角度から三陸の海を学ぶことができます。

「地元の人にとっては当たり前の海ですが、見方を変える」と面白い発見がいろいろあります。そうした気づきを与え、子どもたちの探究心を伸ばしてあげたい」と話すのは、おおつちなおや大土直哉助教。こうした思いから研究者たちは、出前授業を行ったり、地元の高校生と海洋生物の調査活動なども行っています。

三陸の海の魅力を、地域へ、そして子どもたちへ。研究者と地域の交流から、海への興味・関心が育っています。



【問】おおつち海の勉強室
benkyositsu2021@gmail.com

震災の教訓を忘れない！



(写真提供：釜石市)

ラグビーのまちから、震災の記憶と防災の知恵を発信！

2019年9月25日、「ラグビーのまち」として知られる釜石市の『釜石鶉住居（うのすまい）復興スタジアム』で「ラグビーワールドカップ2019TM日本大会」の試合が開催されました。スタジアムがある場所は、震災で被害を受けた釜石東中学校・鶉住居小学校の跡地。震災の際、子どもたちが手を取り合って迅速に避難し、学校の管理下にあった子どもたち全員が難を逃れたことが世界中に広く紹介されました。ラグビーを通して子どもたちに夢や希望を与えながら、復興のシンボルとして、次世代に震災の記憶と防災の知恵を伝えています。

釜石鶉住居復興スタジアムHPIはこちら▶

